

〔研究ノート〕

保育園における語り合う時間に基づく幼児の学び

A Case Study of Young Children's Deep Learning
based on "Dialog-time" in Day Care Center

上田 敏丈・市川 沙也加・岩間 直美
長野 未来・瀬古 杏南

Harutomo UEDA, Sayaka ICHIKAWA, Naomi IWAMA,
Miku NAGANO, Anna SEKO

Studies in Humanities and Cultures

No. 37

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 37号

2022年1月

GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

NAGOYA CITY UNIVERSITY

NAGOYA JAPAN

JANUARY 2022

[研究ノート]

保育園における語り合う時間に基づく幼児の学び

A Case Study of Young Children's Deep Learning based on "Dialog-time" in Day Care Center

上田 敏丈¹・市川 沙也加²・岩間 直美³

長野 未来⁴・瀬古 杏南⁵

**Ueda Harutomo, Ichikawa Sayaka, Iwama Naomi,
Nagano Miku, Seko Anna**

1 名古屋市立大学大学院人間文化研究科 2 南知多町立かるも保育園

3 愛知文教女子短期大学 4 名古屋市立大学大学院人間文化研究科博士後期課程

5 名古屋市立大学大学院人間文化研究科博士前期課程

1. はじめに
 - 1.1 研究背景
 - 1.2 目的
 2. 方法
 - 2.1 研究協力園について
 - 2.2 方法について
 3. 結果と考察
 - 3.1 語り合い保育実践
 4. 総合考察
- 引用文献

要旨 幼児期の教育において、幼稚園教育要領では、2017年の改訂から「主体的・対話的で深い学び」が記され、改めて幼児の学びの姿が重要視されている。そこで、本研究では、ある保育園にて取り組まれている「語り合う時間」の保育実践を取り上げ、幼児期における「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものかを浮き彫りにすることが目的である。研究期間は、2020年9月から2021年3月までである。保育園における「語り合う時間」は期間中79回行われていた。その中から、ドッジボールのチーム分けに関する語り合いの事例を通して、①相対的年齢への認識、②グループ分けへの条件設定、③相対的年齢の転用、④遊びと語り合う時間の連続性という4つの特徴が挙げられた。このような幼児の遊びの時間と語り合う時間を相補的に行うことで、幼児期における主体的・対話的で深い学びとなることが記された。今後、幼児の「深い学び」として保育士が可視化していくとともに、その後の小学校教育とどのように接続していくのかについての保育実践研究を行うことが求められる。

キーワード： 語り合う時間、主体的・対話的で深い学び、保育園

1. はじめに

1.1 研究背景

2017年の幼稚園教育要領の改訂において、「幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現するようにする」(文部科学省, 2017)と記されたように、「主体的・対話的で深い学び」が保育実践を行う上での中心的な概念として位置づけられている。これらの文言は、小学校や中学校、高等学校との教育課程との連続性を意識したものであるため、保育所保育指針については、同様の文言が記されていないものの、保育所における保育を行う上でも重要な概念であるといえよう。

主体的・対話的で深い学びとは、「子どもが問題解決の見通しをもったり、対話を通じて知識を関連づけたり、他の単元でも活用できる体系だった知識を身につけたりする学び」(細尾・柏木, 2021)のことを指している。幼稚園教育要領解説では「心を動かされる体験」を経験することで、「体験と体験が関連」し、深まり広がっていくと述べられている(文部科学省, 2017)。

このような主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブ・ラーニングを中心とした手法を用いながら、各学校種において様々な実践が報告されている(例えば、小学校理科では、芳乃内, 2021; 特別支援では、大森・東・佐々木・村上・那須・熊谷・藤谷, 2021など)。このような学習者中心の教育実践について、最初は高等教育から始まっている。2012年の中教審答申において、アクティブ・ラーニングという言葉が高等教育機関に対して広く周知され、取り入れられてきた(上田・勝浦・加藤・加藤・青木・上村・水落, 2017)。だが、このような方法については、教員の負担増やアクティブ・ラーニングの失敗事例などの報告もある(中部地域大学グループ・東海Aチーム, 2014)。

このように、主体的・対話的で深い学びの実践蓄積が求められてきているが、特にそのはじまりの時期である就学前教育において、どのような保育が「主体的・対話的で深い学び」に連携していくことができるのだろうか。

1.2 目的

本研究では、この視点からある保育園にて取り組まれている「語り合い」を中心とした保育実践を取り上げ、幼児期における「主体的・対話的で深い学び」の事例として報告する。

2. 方法

2.1 研究協力園について

本研究の協力園のA保育園は、2～5歳児各1クラスずつの小規模な保育園である。地域の特性として自然豊かな環境に位置し、転園などの移動も少ない。小規模な保育園ならではの異年齢児と関わる機会も多くあり、年齢が異なってもお互いに親しみをもつ姿が見られる。

本研究で報告するのは、年長児クラスでの保育実践である。園児は24名(男児16名 女児8名)であり、担任保育士のB先生(保育歴12年)、補助の保育士C先生(保育歴7年)で保育を行っている。4歳児クラスから、5歳児クラスへは保育士2名も持ち上がりとなっていた。

クラスの雰囲気では、4歳児クラス進級時、ケンカなどのトラブルが多く、手が出てしまうこともあり、まとまりのある集団というよりは、個々の個性や思いが強いようであるとB先生は述べていた。

B先生は、子ども主体の保育を行いたいと考えていたときに、柴田の著作（柴田，2016；柴田，2019）を読み、ミーティングという方法について知ったという。そこで、子どもたちの想いや声を聞き、子どもたちと一緒に遊びや行事を考えて行いたいという語り合いの時間を持つようになった。また、トラブルが多く、目が離せない集団であったため、お互いの想いや良さに気付いたり、言葉で伝え合う経験をしてほしいという保育士としての願いもあったことから取り入れたという。

従って、幼児期の「主体的・対話的で深い学び」の具体的実践として、B先生が初めて行った「語り合い」の時間に焦点を当てることとした。

2.2 方法について

1) 研究期間

本研究の期間は、2020年9月から2021年3月までである。A保育園のスケジュールでは、朝の登園後、部屋の中か外での好きな遊びの時間があり、10時ごろから部屋に集まり、朝の集まり、歌や絵本の時間がある。その朝の集まりの時間の中で、定期的に20～40分程度の「語り合い」の時間が設けられている。本研究では、この語り合いの時間を分析の対象とした。

2) データ収集の方法

語り合いの時間は、保育室の中で園児それぞれが椅子を持ち寄り、円座となる。担当保育士2名もこの円座に加わっている。従って、この円の中心に、360度の録画が可能なビデオカメラを設置し、語り合いの初めから終わりまでを録画した。その後、語り合いの内容について、文字起こしを行なった。

3) 倫理的配慮

倫理的配慮として、A保育園の園長及びB町の所管部署に研究の内諾を得たのち、文書で許諾を得た。本研究の実施に当たっては、個人情報の保護を遵守するとともに、発表に当たっては匿名化を行うこと等について説明をし、許諾を得た。

3. 結果と考察

3.1 語り合い保育実践

1) 幼児との語り合い時間の概要

A保育園年長児クラスでは、幼児との語り合いの時間を二日に1日程度取り入れている。本研究期間であった2学期の9月から翌年3月までの7ヶ月間では、合計79回の語り合いがあった。合

表1 語り合い時間の概要

月	日	曜日	テーマ	具体的内容	語り合い時間
9 (10回)	4	金	遊び・行事	防火パレード、室内遊び	0:19:13
	8	火	行事	防火パレード	0:27:30
	9	水	科学	秋について、月の不思議	0:23:26
	11	金	行事	実習生との思い出	0:07:39
	14	月	行事・遊び	縄跳び大会、戸外遊び	0:09:30
	15	火	行事	運動会について、体操について	0:20:16
	17	木	行事	ドッジボール大会、チーム決め	0:18:38
	23	水	行事	おやすみの思い出	0:28:28
	24	木	遊び	ドッジチーム分け	0:20:26
28	月	行事	防火パレード練習について、リレーチーム分け	0:21:21	
10 (12回)	1	木	行事	防火パレード(不安なところ)	0:09:42
	2	金	科学	月について、宇宙について	0:28:02
	6	火	行事	防火パレードに向けて、火屋について	0:26:29
	12	月	行事	リレーチーム分け	0:27:05
	13	火	行事	リレーチーム分け	0:10:47
	14	水	行事	運動会について(玉入れのコツなど)	0:18:50
	16	金	行事	ハロウィンパーティーについて	0:17:34
	19	月	生活	小学校に行くこと	0:28:07
	20	火	生活	小学校訪問がどうだったか	0:17:07
	22	木	生活	ハロウィンパーティーについて	0:09:51
26	月	行事	運動会について、リレーのバトン	0:18:35	
29	木	行事	運動会振り返り	0:18:54	
11 (12回)	2	月	遊び・行事	しりとりに遊び、発表会について	0:28:15
	5	木	哲学	結婚について、天国と地獄について、怪談について	0:26:39
	6	金	行事	発表会について	0:35:52
	10	火	行事	ハンドベル演奏、劇遊びに必要なもの	0:21:13
	11	水	行事	同じグループでセリフ決め	0:16:38
	12	木	哲学	結婚について	0:18:55
	18	水	行事	発表会について	0:08:51
	20	金	行事	セリフの動き	0:09:39
	24	火	行事	練習で良かったところ、頑張る目標	0:14:49
	25	水	行事	決めた目標はできたか	0:15:25
26	木	行事	練習の振り返り	0:18:25	
30	月	行事	発表会に向けて	0:13:59	
12 (14回)	2	水	行事	発表会振り返り	0:19:56
	3	木	行事	クリスマスプレゼントについて	0:22:51
	4	金	哲学	大人とお姉さんと子どもの境目は?	0:28:52
	7	月	行事	健康管理について(コロナ予防再確認)	0:30:01
	8	火	行事	クリスマス会について(サンタさんからの手紙)	0:41:41
	10	木	遊び	戸外遊びで困ったこと、ドッジチーム分け、サッカーの遊び	0:21:55
	11	金	行事	クリスマス会について	0:22:18
	14	月	生活	クリスマスについて	0:30:56
	18	金	行事	クリスマス会をやってみて	0:13:40
	21	月	哲学	大きくなるって言うことは?	0:35:56
22	火	行事	卒園式歌いたい曲	0:19:14	
24	木	生活	サンタからの手紙	0:18:35	
25	金	生活	サンタからのプレゼント	0:31:32	
1 (11回)	7	木	生活	休み中のこと(誰と、どこで、何をしたら)	0:21:51
	8	金	科学	氷について、氷を作ってみよう	0:16:50
	14	木	科学	なぜ氷ができなかったのか	0:24:09
	15	金	行事	卒園式にやりたいこと	0:21:24
	18	月	生活	小学校について	0:26:03
	19	火	生活	節分の鬼について	0:30:49
	21	木	科学	どうしたら氷ができるのか	0:37:51
	22	金	科学	実験第2段階について	0:27:12
	26	火	遊び	鬼ゲーム、好きな遊びについて	0:30:54
27	水	遊び	鬼ゲーム、大きくなったら何になりたいか	0:37:14	
28	木	遊び	鬼ゲーム、遊びについて	0:26:52	
2 (11)	1	月	生活	節分の鬼について	0:32:04
	3	水	生活	保育園に入ったときの思い出	0:35:37
	4	木	生活	お父さんお母さんの名前と年齢	0:29:31
	5	金	生活	園の思い出	0:26:42
	9	火	生活	姿勢について	0:34:14
	12	金	生活	小学校の行き方について	0:30:13
	15	月	生活	バレンタインデーについて	0:21:53
	17	水	行事	卒園式の言葉	0:26:12
	18	木	行事	ありがとうを伝えたい人	0:22:50
24	水	遊び	卒園までにやりたい遊び	0:02:55	
26	金	遊び	リレー・ドッジのチーム分け	0:23:46	
3	1	月	生活・行事	好きな絵本について、ひなまつり会について	0:19:56
	4	木	哲学	友達ってなんだろう?	0:32:19
	5	金	哲学	結婚ってなんだろう?	0:25:50
	8	月	科学	地球はどうやってできたの?人はどうして生まれたの?	0:24:26
	11	木	生活	小学校はどうだった?(遠足)お客さんへの質問	0:40:09
	12	金	行事	リレーの走る順番決め	0:07:43
	17	水	哲学	卒園式ってなんだろう。	0:26:45
	19	木	哲学	好きな友達、兄弟について。お客さんへの質問	0:34:58
	22	月	哲学	話し合いをしてみよう	0:44:51
25	木	生活	明日は卒園式。今、どんな気持ち?	0:13:02	
合計					30:50:42
平均					0:23:26
最小					0:02:55
最大					0:44:51
個数					79

計で30時間50分、平均は約23分(最小約3分、最長約45分)であった。語り合いのテーマは、ドッジボールのチーム分けや室内遊びについて語り合う「遊びに関するテーマ」、運動会や縄跳び大会、防火パレードについて語り合う「行事に関するテーマ」、小学校に行くことや休み期間中についての出来事について語り合う「生活的テーマ」、月や宇宙について語り合う「科学的テーマ」、結婚とは、天国と地獄とはどこにあるのか、などについて語り合う「哲学的テーマ」の5つに大別された。

2) 語り合い時間の事例

では、具体的にどのように話し合いが行われ、幼児と保育士が語り合っているのか、具体的な事例を提示する。

事例：ドッジボールのチーム分け（21年9月17日）

9月のある日。朝からドッジボール遊びが行われている。年長の初めからよく楽しんでいた。この日は水遊びも終わり、久しぶりにドッジボールを行なった。10時ごろまで園庭で遊び、その後、部屋に戻ってきて語り合いが始まった。以下、語り合いの内容である。

担任保育者（以下、担任）：はい、じゃあ、足をそろえてください。今日は久しぶりにドッジボールやったけど楽しかったね。

複数の幼児：たのしかった

女児1：白やった人は黄色になる。

担任：帽子の色を変えるとということ？黄色の帽子の方が強いということ？いまね、Miちゃんと言っていることわかった？じゃあね、今日、黄色チームだった人？（挙手をしてもらい、数える）
じゃあ、白チームだった人？（同じく挙手をしてもらい数える）

担任：帽子の色を次やるときに、白チームだった子が黄色チームになって、黄色チームだった子が白チームになる？でもさ、だったら、黄色の帽子の方が強いということ？

複数の幼児：そう。

女児1：いいじゃん、Miちゃんいるからさ、おっきい人だしさ。

担任：Miちゃん、年上なの？

女児2：うん、だってほら（誕生日を指さす）

担任：あー、そっか、Miちゃん、6歳だもんね。Roちゃん、まだ5歳だもんね。

Mi：あー、先生、だったら、6歳チームと5歳チームとさ…

担任：あ、6歳チームを半分に分けるとということ？もういっかい教えて。

Mi：6歳で半分になって、ふたりでドッジボールしてさ、5歳の人がふたりでドッジボールやればいい。

担任：6歳チームを黄色と白チームに分けて、次に5歳チームも、黄色と白チームに分けるとい
うこと？

女児：5歳チームと6歳チームでわかれる。

担任：じゃあ、いま、Roちゃんたちが言ってた、6歳チームを半分と、5歳チームを半分というの
と、5歳チームと6歳チームに分かれるというの、両方やればいいんだ。お昼にどっちかやっ
てみる。お昼の時に、6歳対5歳か。でも、1つは今日やって、1個は明日。

以上の事例は、9月のドッジボールのチーム分けについて語り合った例であるが、この語り合いからは以下の特徴が浮かび上がる。

①年齢差に関する幼児の仮説

この事例では、ドッジボールのチーム分けを行う際に、女兒から分ける時のアイデアが述べられる。事例であげられた「おっきい人」とは誕生日をすでにむかえ、6歳となっている幼児である。毎日のドッジボールの勝敗から、女兒1は、早くに誕生日を迎えている子がいるチームが勝つのでないかと考えている。

このような同じ学年における月齢の違いは、相対年齢効果と呼ばれ実際に誕生月がプロスポーツ選手になれる確率の違いについて述べられている（榊原・尾見，2005）。年長児自身も、このような相対年齢効果を幼児自身もまた体感しているといえよう。

②グループ分けによる条件設定への仮説

次にどのようにグループを分けるか、という点において、6歳チームと5歳チームとで分かれるか（9月の時点では6歳児の人数が少ない）、6歳と5歳のグループをまず2グループに分け、その半分ずつを一つのチームとする案が出されていた。

少数の年齢が相対的に高いグループと、それ以外の多数グループが良いのか、年齢という条件を一定にすることの方が良いのかについて、それぞれの仮説が提示された結果、その2条件を仮説として、実際にドッジボールを行うということで合意されていた。

この語り合いの結果は、遊びに基づく体験から仮説を持ち条件設定へとつながり検証するという深い学びとして捉えることができよう。

③相対年齢の転用

事例には記されていないが、この語り合いののちに、2名の保育士がどちらのグループに入るかについても議論された。その際に、幼児からどちらの年齢が高いかでどちらのグループに入るかを決めようというアイデアが話される。これは、自分たち自身の相対的な年齢の違いを保育士にも当てはめ使用しているという点で、「知識・技能の基礎（知っている）」ことを日常生活の中で判断したり考えたりする「思考力・判断力・表現力の基礎（使える）」ことへの拡大である。

④幼児の好きな遊びと語り合いの時間との連続性

ドッジボールは、多くの保育園の年長児で取り込まれる活動であり、幼児の好きな遊びの一つである。このような遊びの中にどのような学びが含まれているのかは、保育実践者は理解しているものの、社会的には、遊び≠学びと捉えられている。しかし、本事例からは、日々の遊びを振り返って、語り合いを行うことで、次の遊びにつながっているという連続性が示された。このような語り合いの時間を通して、幼児が遊びの中で何を感じ考えているのか、それらをどのように捉え、次の遊びを展開するのかの学びのプロセスであるといえよう。

4. 総合考察

本研究は、ある保育園にて取り組まれている「語り合い」を中心とした保育実践を取り上げ、幼児期における「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものかを浮き彫りにすることが目的である。

幼稚園教育要領（文部科学省，2017）では、主体的・対話的で深い学びが実現するようにすることが求められ、保育所保育指針（厚生労働省，2017）においても、「経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむ」ようにすることが求められている。

このような保育実践は、必ずしも新しいものではなく、これまでも幼児の「話し合い」に焦点をあてた実践は報告されてきた（例えば、フレッチャー，1967；野呂・杉山，1995）など、多くの保育現場で取り入れられてきたものである。だが、2017年の幼稚園教育要領の改訂、保育所保育指針の改定から幼児期においても「主体的・対話的で深い学び」が取り上げられたことにより、これまでの保育実践で培われてきていたことを改めて、幼児の「深い学び」として保育士が可視化していくとともに、その後の小学校教育とどのように接続していくのかについての保育実践研究を行うことが求められるだろう。

本研究においては、幼児期の語り合いの時間を通して、「主体的・対話的で深い学び」の一例を例示することができたが、これらをさらに多角的に分析していくこと、また、小学校教育との接続性を検討していくことが今後の課題である。

引用文献

- 中部地域大学グループ・東海Aチーム（2014）アクティブ・ラーニング失敗事例集ハンドブック．産業界ニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業，8-11.
- フレッチャー，ルビー・帆足喜与子（1967）対立意見についての話し合い．幼児の教育，66(8)，29-33.
- 厚生労働省（2017）保育所保育指針．厚生労働省.
- 文部科学省（2017）幼稚園教育要領．文部科学省.
- 文部科学省（2017）幼稚園教育要領解説．文部科学省.
- 野呂アイ・杉山弘子（1995）幼児の話し合い活動について（1）——保育活動における話し合いの意味.日本保育学会大会研究論文集,48, 842-843.
- 大森響生・東信之・佐々木全・村上瑠星・那須星香・熊谷知子・藤谷憲司（2021）知的障害特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善の試み——中学部「作業学習」を事例として．教育実践研究論文集，8，165-170.
- 細尾萌子・柏木智子（2021）小学校教育用語辞典.ミネルヴァ書房.
- 榊原禎宏・尾見康博（2005）誕生月はプロスポーツ選手になれる確率を変えているか？——日本の教育実践における社会的背景．山梨大学教育人間科学部紀要，7(1)，189-193.
- 柴田愛子（2016）こどものみかた春夏秋冬．福音館書店.

- 柴田愛子（2019）とことんあそんででっかく育て——柴田愛子流「りんごの木」の保育春夏秋冬．世界文化社．
- 芳乃内貴一（2021）小学校における「協働的な学び」を生み出す学習方法に関する研究——小学校5年生理科「流れる水のはたらき」の単元を対象に．学校教育実践研究, 13, 41-51.
- 上田敏丈・勝浦眞仁・加藤信子・加藤望・青木文美・上村晶・水落洋志・太田早津美（2017）保育者養成校におけるアクティブ・ラーニング活用の実態と課題に関する研究．人間文化研究,28, 37-48.